

# 飛鳥

古きもの  
・  
明日のもの

2021年  
秋から  
冬へ  
No.13

財団創立50周年記念特別号



収穫の喜び（飛鳥）

この歌は農耕生活の大衆に歌われた労務歌の一つです。年貢米を納めるために毎日稲を搗き、重労働で手にはまめができ、あか切れてたれまです。そこで辛い労働を癒すために空想の世界で「高貴な若様が来て、あか切れた私の手を取って『可哀想になあ』と嘆いてくださるのです」と自らを慰める歌だと私は解釈しました。片や身分を超えた恋の歌…と解釈される方もおいですが、こうしていろんな取らえ方を人に与えてくれるのが秀歌というものなのでしょう。



石舞台上に彩りそえて（島庄）

写真／加藤秀行

毎日、稲をついてあか切れてただれた私の手をお取りになって  
今晩もまた殿の若様が「可哀相になあ」と嘆かれることでしょうかねえ。

作者未詳（巻十四―三四五九）

稲つけば 輝る吾が手を  
殿の若子が 取りて嘆かむ  
今宵もか



高松塚古墳西壁女子群像(模写)

飛鳥人降臨  
高松塚古墳壁画発見50周年！  
前日からの雨もやみ、どんよりとした雨雲が飛鳥一面を覆っていた昭和47年3月21日、村内で小さな古墳の調査が行われていた。古墳の名前は高松塚古墳。当時、「高松塚」の名を聞いてその存在を知る人は少なかった。しかし、お昼を30分ほど過ぎた頃、墳丘に開いた小さな穴から千数百年の時空を超えて16人もの飛鳥人が姿を現したのである。高松塚の名は瞬く間に全国を駆け巡り、飛鳥ブームが沸き起こった。さらに飛鳥人の出現はその後、明日香村の方向性を導き出した。壁画発見を契機として「明日香法」が制定され、飛鳥地域の遺跡や歴史的景観が保全されることとなった。さらに村内全域が遺跡として位置づけられたことで継続的な調査・研究が進められ、日本の国家形成の歩みが今、解明されようとしている。そして壁画発見から来年でちょうど50年。半世紀前、開発の波から飛鳥を救った飛鳥人たちの思いは現在進められている世界文化遺産登録へと受け継がれ、「日本の飛鳥から世界の飛鳥へ」と今、まさに羽ばたこうとしている。  
(明日香村文化財課 西光慎治)

## 古都飛鳥保存財団のあゆみ

昭和45年	3月	松下 幸之助氏が佐藤総理に飛鳥の荒廃を訴え、その保存措置を要請。	平成11年	6月	飛鳥駅前地場産品直売所の設営に協力。
	5月	佐藤総理とその他の関係閣僚が飛鳥現地を視察。	13年	8月	高松塚壁画館が通年開館をスタート。
	12月	答申に基づき、「飛鳥地方における歴史的風土及び文化財の保存等に関する方策について」が閣議決定。	13年	12月	設立30周年記念誌「飛鳥に学ぶ」を発行。
46年	4月	財団法人飛鳥保存財団が設立。 松下 幸之助氏が理事長に就任。	15年	9月	飛鳥の民俗第二輯「明日香の風土」を発行。
	47年	3月	3月	総合案内所「飛鳥びとの館」としてリニューアルオープン。	
48年	3月	高松塚古墳保存寄付金つき郵便切手発行。	16年	7月	特殊切手「特別史跡キトラ古墳（寄附金付）」寄附金配分が決定。 キトラ古墳映像と公開機器を整備。
	49年	3月	3月	「国宝高松塚古墳壁画恒久保存対策」についてアンケートを全村に実施。	
51年	10月	高松塚史跡公園内に高松塚壁画館が竣工。	17年	8月	「国高松塚古墳壁画恒久保存対策」についてアンケートを全村に実施。
53年	5月	高松塚慰霊祠が竣工。	18年	10月	季刊誌「明日香風100号」を発行。
54年	12月	昭和天皇陛下が明日香村に行幸。 高松塚古墳と壁画館天覧。	19年	2月	奈良大学と連携協定を締結。
	55年	5月	7月	飛鳥の宿「祝戸荘」をリニューアルオープン。	
56年	6月	「明日香村における歴史的風土の保存及び生活環境の整備等に関する特別措置法」が施行。	20年	7月	第1期飛鳥応援大使を委嘱。 帝塚山大学と連携協定を締結。
	10月	秩父宮妃殿下が高松塚壁画館を視察。 季刊誌「明日香風」を発行。	23年	4月	「財団法人 古都保存団」と合併し、法人名称を「財団法人 古都飛鳥保存財団」と改称。
平成2年	3月	飛鳥総合案内所が新装開館。	25年	4月	内閣総理大臣より「公益財団法人」への移行認定を受け、「公益財団法人 古都飛鳥保存財団」と名称変更。
9年	10月	インターネットホームページを開設。	27年	7月	高松塚壁画館が入館者600万人を達成。
	10年	10月	8月	広報誌「飛鳥びと」を創刊。	
10年	10月	高松塚壁画館に解説用モニターを設置（日本語・英語・韓国語）	28年	4月	上皇皇后両陛下、明日香村に行幸。 高松塚古墳と壁画館天覧。
	29年	7月		和田林 道宣氏が理事長に就任。	
30年	9月	「道の駅 飛鳥」が開駅。	30年	9月	「道の駅 飛鳥」が開駅。



本校生徒の多くが通学で利用させて頂く飛鳥駅。日頃の感謝の気持ちを伝えるとともに、飛鳥駅前を活性化するため、平成28年度より「飛鳥駅前ふれあいコンサート」が始まりました。台風の接近により中止を余儀なくされた年もありますが、開催時にはたくさんの方々に来場いただいています。駅前サポーターの方々のコラボで「ヤングマン」を歌い踊ったり、会場の方と一緒に「ふるさと」を歌ったり、いつも大いに盛り上がりました。「楽しかった。」「来年も楽しみにしているよ。」「ありがどう。」等々の声をたくさんいただき、私たちも「やって良かったね。」「来年も是非今年以上のものにしたいなあ。」と、開催のたびに思っていました。残念ながら、昨年はコロナ禍の影響により中止となってしまいましたが、今年は、感染予防対策に万全を期し、再び開かれることを願っています。「飛鳥駅前ふれあいコンサート」が開催された際には、是非一緒に楽しいひとときを過ごしましょう。  
高取国際高校 生徒会

「飛鳥駅前  
ふれあいコンサート」

帝塚山大学  
TEZUKAYAMA UNIVERSITY

奈良大学  
NARA UNIVERSITY

発行・お問合せ 公益財団法人 古都飛鳥保存財団  
〒634-0138 奈良県高市郡明日香村大字越13-1  
TEL：0744-54-3338 FAX：0744-54-3638  
E-mail：info@asukabito.or.jp HP：http://www.asukabito.or.jp  
日本人の心のふるさと ～その保存と未来のために～

# 財団創立五十周年を 迎えて

公益財団法人古都飛鳥保存財団  
理事長 **和田 道宜**



古都飛鳥保存財団は、本年四月に創立五十周年を迎えました。これもひとえに、行政をはじめ財界や学会のご指導とご支援、全国の飛鳥ファンによるサポート、ならびに飛鳥を愛してやまない地元の方々のご協力の賜物であり、心より感謝申し上げます。

当財団は、昭和四十六年に飛鳥保存財団として発足して以来、飛鳥地方の歴史的風土の保存に取り組んで参りました。その後、古都保存財団との合併により、半世紀にわたって、事業を進めて参りました。

財団経営を取り巻く環境は発足当時と比べ、一段と厳しさを増しておりますが、創立五十周年を迎えるこの機会を再出発のチャンスと捉え、新たな事業にも挑戦しつつ、歴史的風土の保存とその活用にも努めて参ります。

まず、五十周年記念事業の一つとして、「飛鳥・藤原まるごと博物館」(飛鳥・藤原文化観光) 検定の実施を予定しております。

様々な年齢層の飛鳥・藤原ファンの方々が本検定を受検され、より幅広い知識を身につけられるとともに、単なる

歴史・考古ファンから「飛鳥・藤原の語り部」へステップアップされ、さらに文化観光案内のスキルを身に付けていただけましたら幸いです。

今年度はまず入門編(筆記試験のみ)を実施する予定です。

当財団が本検定を実施する背景には、2024年の「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の世界遺産登録を目指し、その準備が関係行政機関により進められていることがあります。また、昨年には「文化観光推進法」が公布され、奈良県や明日香村では同法に基づき地域計画が認定されています。さらにこの六月には奈良県文化財保存活用大綱がまとめられました。今後は関係行政機関等との連携を強化し、文化観光の推進など、飛鳥地方の文化遺産の創造的活用にも努めて参りたいと考えています。

その他にも、世界遺産フォーラム「飛鳥学講演会」の東京での開催、飛鳥地方を散策しながら世界遺産候補の文化資産や関連する古代史を気軽に学ぶことのできる「飛鳥・藤原散策アプリ」の開発、高松塚壁画館解説書のリニューアル等を通じて多様な情報発信ツールの構築、五十周年記念植樹の実施など、ささやかではあります。半世紀の節目を記念した事業を予定しております。新たな時代のニーズに応じた業務のあり方を今後も模索しつつ、新たな半世紀に向かって着実に歩みを重ねて参る所存です。

最後になりましたが、皆様方の一層のご理解、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

## 古都飛鳥保存財団創立50周年

### 「クマノザクラ 記念植樹」

本年3月、財団創立50周年の記念事業の一環として、飛鳥地方の玄関口の一つである近鉄橿原駅前中央口広場で「クマノザクラ」の記念植樹を行いました。クマノザクラは紀伊半島に野生する在来の桜ですが、新種であることがほぼ百年ぶりに確認され、注目を浴びました。



◀クマノザクラ(令和三年四月開花)

この中央口広場では、藤原宮大極殿の南門前に701年に立てられた幢幡に見立て、計7本の桜を配植しています。

「古事記」や「日本書紀」には、神武天皇が最後に熊野から上陸し、八咫鳥に導かれながら、現在の橿原神宮付近の地に着いて即位したという、有名な神武東征神話が記されています。昨年は「日本書紀」編纂千三百年に当たる年でもあったことから、記念植樹には、「日本書紀」編纂千三百年を記念する事業という意味も込めています。



クマノザクラ植栽位置図



### ◀クマノザクラ苗木



## 飛鳥藤原の「地知の輪」

飛鳥・藤原の  
名人紹介

### 「飛鳥を想う」

私の子どもの頃は石舞台の石の上で遊んだり、古池で泳いだり、神社や寺は遊び場で、あまりにも身近な存在であり、これらが「文化財」という認識はありませんでした。昭和三十年代、飛鳥寺などの発掘に携わる奈文研の先生方が当社社の社務所で宿泊をされ、掘り出された瓦などを洗っておられる姿を当たり前のよう日々目にしているうちに、この飛鳥という土地が歴史



的に重要な場所であるかを自然と認識するようになりました。昭和四十七年に高松塚古墳壁画が見つかり、日本中が壁画ブームに沸き立ちました。それ以降、飛鳥は徐々に変わりました。当時の佐藤総理大臣が甘樫丘に登られてから多くの著名人が訪れ、「明日香法」成立のため私も青年代表で意見を述べたことを思い出します。

宮司になってはじめての社外での大きなお祭りは、高松塚壁画館の地鎮祭でした。郵政大臣・松下電器の松下幸之助氏・知事・市町村長といった錚々たる顔ぶれの前のご奉仕は、それは緊張したものです。ご依頼された財団の方々にも、まだ二十代の若造が一人

で御奉祀する姿は、さぞかし頼りなげに映ったことと思われます。

あれから五十年もの歳月が流れ、飛鳥の発展と共に、私自身も宮司として多くの祭典、神社の改修事業など、それなりに我が道を歩んでこられたように思います。これからも多くの人々を飛鳥に誘い、心の故郷としての飛鳥を後世に引き継いでいけるよう、歴史ある地で日々ご奉仕していく所存です。



撮影：上山好庸氏

飛鳥坐神社 第八十七代 宮司 飛鳥弘文

# 食 手打ちそば処 一源庵



## ～ 野趣と繊細さを一度に味わえる幸せそば屋 ～

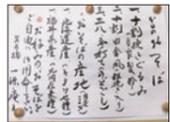
全国のファンから通称「明日香のカメそば屋」と呼ばれている「一源庵」は店を構えて15年。万葉書家でもある店主の前北翔秀氏と奥様の千恵子さんが店を切り盛りしている。「挽きたて、打ちたて、茹でたて」の「三たて」が命のそば打ちの技術に魅せられて「冷たい“ざるそば”を冬に食べても『うまい!』と言っていただけのそばを出したい」と原材料にはとことんこだわったという店主の前北氏。



明日香風流 ¥1000  
二八手打ちの山かけと粗挽き十割田舎風の海苔かけの合盛り。



カメそば焼き ¥150  
そば粉をブレンドしたたい焼き風。甘さ控え目のつぶあんがぎゅっしり。5年間の構想後に今年完成した。



メニュー…  
・冷 もりそば・明日香風流  
・湯 カメそば・ハイカラそば・にしんそば

0744-54-3555 住 明日香村御園9-2 (飛鳥駅徒歩7分)  
営 金曜 11:00~14:00 (そば売り切れ次第閉店)  
土・日・祝 11:00~14:30  
休 月曜~木曜 駐 あり

Restaurant introduction

当財団は、本年創立50周年の節目を迎えました。また、来年の春には高松塚古墳壁画の発見50周年を迎えます。

これを機に、高松塚壁画館の運営事業などに加えて、時代のニーズに対応した新たな業務にもチャレンジしつつ、次の半世紀に向かって歩みを重ねて参る所存です。具体的には、財団独自の事業を企画・実施するとともに、関係行政機関等に対するご提案等も、今後は積極的に進めたいと考えています。特に、文化観光の推進などの歴史的風土の創造的活用に向けて、関係行政機関をはじめ、事業者・観光客・住民が、お互いの立場を理解しつつ、協調して行動するための「飛鳥・藤原文化観光宣言」(仮称)についてのご提案や、世界遺産登録を目指す「飛鳥・藤原の宮都とその関連資産群」の周知と機運の向上のための支援活動などに努めて参りたいと考えています。

皆様方の一層のご支援とご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

(公財) 古都飛鳥保存財団

### 飛鳥からの便り

明日香には学生時代に遠足や修学旅行で訪れた、という人が多いはずですが。今思えばワイワイと楽しかったけれど、歴史や文化までは十分に満喫できなかった…なんて思ったことはありませんか? 大人になって、今だからこそ飛鳥の原風景やお寺・史跡を巡ってほしい…。

そんな方にはお得な「明日香周遊バスフリー乗車券」がおすすめです。観光地とバス路線図をもち、一日何度でも乗り降りが自由です。又、近鉄では、「あみま倶楽部」という無料の会員制のハイキング倶楽部が人気です。「なるほど、こんな楽しみ方もあったのか」と目からウロコの私です。是非利用してみてください。

新子 信子



私たちは  
古都飛鳥保存財団の活動を  
応援しています

